I　川崎地区　　時代を先駆ける国際環境創造都市・川崎

＜主な取組み＞

1　地域の活力があふれるまちづくり

　羽田空港の再拡張・国際化に対応した交流拠点の形成と産業の集積に向けて、立地が期待される機能などについて、検討を行いました。

　また、川崎市では、対日投資の拡充、起業家の創出、ビジネスチャンスの拡大、環境技術を生かした国際貢献をめざすアジア起業家村構想*に基づき、中国、韓国、ベトナムの若く優秀な起業家が創業し、国際的な産業交流が促進されました。

　さらに、ＮＰＯ*などとの共催による「ロボット・中小製造業・起業」フォーラムや、逆見本市*などのロボット関連産業の創出や集積に向けた取組みを進めています。

2　快適で安全なくらしを支えるまちづくり

　広域交通ネットワークを構築するため、川崎縦貫道路（Ｉ期）などの基幹的な交通網の整備・検討を進めました。

　また、臨海部の東扇島地区では、基幹的広域防災拠点*の整備が国により着手されるとともに、宿河原地区などでは急傾斜地崩壊防止施設の整備を行いました。

3　環境にやさしいうるおいのあるまちづくり

　ＤＭＥトラックへの燃料充填を行うＤＭＥステーションを川崎区内に設置するなど、ＤＭＥ自動車*の導入及び実用化に向けた取組みを進めました。

＜課題と今後の対応方向＞

　生産機能の地域外への移転などによる空洞化に対応するため、地域の特性を生かし、新たな産業の創出・集積や企業活動の活性化に向けた取組みを進めます。

　また、地域の個性を生かした快適で安全な魅力ある都市基盤の整備を一層進めていく必要があることから、交通網の整備や基幹的広域防災拠点などの整備を進めていきます。

　さらに、持続型社会の実現に向けた取組みを一層進めていく必要があることから、環境に配慮した取組みや良好な環境の保全と創出に取り組んでいきます。

「ロボット・中小製造業・起業」フォーラム

ＤＭＥステーション

地区の数値データ（指標）

○事業所数及び従業者数

（単位：事業所、人）

	1991	1996	2001
事業所数	47,119（14.6%）	46,789（14.3%）	43,058（13.9%）
従業者数	536,531（15.8%）	536,614（15.2%）	499,176（14.8%）

（「事業所・企業統計調査（総務省）」より作成）

○道路の混雑度 1.75 以上の箇所の割合（平日）

（単位：%）

1994	1997	1999
19.1〔13.8〕	19.1〔10.2〕	15.9〔6.5〕

※〔　〕内は全県における混雑度 1.75 以上の箇所の割合

　混雑度とは、道路の混雑の程度を示す指標で、道路の持つ交通容量（交通を通すことができる能力）に対する実際の交通量の比で示されます。混雑度 1.75 以上の交通状況は、慢性的交通混雑状態と推定されます。

注）高速自動車国道及び都市高速道路を除く

（「道路交通センサス」より作成）

○市街地におけるみどりのスペース

（単位：ha）

2001	2002	2003
1,270　(2.5%)	1,285　(2.6%)	1,308　(2.6%)
うち都市公園 455（12.2%）	466（12.3%）	483（12.4%）

（県関係課での調査集計より作成）

※（　）内は全県に占める割合